

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 8 月 10 日現在

機関番号：32413

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380900

研究課題名(和文) 結婚コミットメントと心理的健康 子育て期から高齢期まで

研究課題名(英文) Marital commitment and psychological well-being

研究代表者

伊藤 裕子 (Ito, Yuko)

文京学院大学・人間学部・教授

研究者番号：50296357

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：離婚率の上昇に伴い、結婚生活を続けることが個人の心理的健康にどう影響するかを明らかにした。中高年期夫婦を対象に、結婚コミットメント(以下C)は、人格的C、諦め・機能的C、規範的Cから成ることが明らかにされ、クラスター分析の結果、規範的Cが高く、かつ人格的Cも高い、日本の高齢者に特有の規範型が抽出された。また、子育て期では、上記3因子に加え、子の存在Cが抽出され、計4因子を中高年期と比較すると、子育て期では規範的Cが薄かった。さらに、若い世代では子の存在は必ずしも離婚を抑止するものではないことが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：With increasing the rate of divorce, the purpose of this study was to find out how keeping the marital life influence the individual psychological well-being. For couples in middle-aged period and in elderly period, marital commitment (marital C.) was composed of personal C., resignation and instrumental C. and normative C. As a result of cluster analysis, the specific normative type was found out in Japanese elderly period with both high rates of normative C. and personal C. In child-rearing period, in addition to above three factors, child-existence C. was found out. Normative C. was weakened in child-rearing period when four factors were compared with in middle-aged period and in elderly period. Moreover, not all the thing child-existence restrained the divorce was proved in child-rearing period.

研究分野：発達心理学

キーワード：夫婦関係 結婚コミットメント 中高年期 ジェネラティヴィティ 心理的健康

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19  
(共通)

## 1. 研究開始当初の背景

わが国における長寿命化と少子化は著しく、また家意識の衰退から三世代家族は減少し、子どもが離家した後は夫婦二人で過ごす世帯が増加している。夫婦の関係が、その後の心理的健康にどのような影響を及ぼすのか、わが国の夫婦研究はまだ始まったばかりで、少子化に焦点が当たり、育児不安など子育て期の夫婦が研究の中心になっている。

しかし、中高年期夫婦の離婚の増加など、団塊世代を中心にした中高年期の夫婦関係は、家族社会学を中心に行われており、心理学領域ではほとんど手付かずである。中高年期夫婦を扱った成書もまだ2~3点のみである。そこで中高年期を中心に、離婚せず夫婦関係を継続しているのはなぜか、まず、結婚コミットメント尺度を作成し、コミットメントのあり方が心理的健康や中高年期の課題である世代継承性(Generativity)にどのように影響するかを探る。

## 2. 研究の目的

近年の長寿命化に伴い、夫婦二人で生活する期間が長期化した。夫婦の愛情やコミットメントがGenerativityおよび心理的健康にどのように影響するかを、特にジェンダーの視点から明らかにする。

## 3. 研究の方法

### 1 2014年 中高年期調査

2013年に、本学共同研究で取った中高年期の対象者927名に、高齢期の対象者が少なかったので高齢期を中心にデータを収集し、651名のデータを追加し1,578名を得た。

調査対象と方法 調査対象は中高年期の夫婦で、大学生の親、大学主催の公開講座・生涯学習講座の受講者、公民館に集う各種サークルの参加者、シルバー人材センター登録者、自治会の役員等に調査票(夫婦票)を配布。回収は、大学生の親以外は郵送によった。調査は、2013年6月、同年10~11月、2014年10~11月。  
調査内容 結婚コミットメント、Generativity尺度(LSG:田淵ら2012)、愛情尺度(伊藤・相良,2012)、低勢力認知(相良・伊藤,2010)、個別化尺度(伊藤・相良,2011)、主観的幸福感(伊藤ら,2004)、夫婦関係満足度、性役割観、その他。

倫理的配慮 文京学院大学人間学部倫理委員会の承認を経て実施した。

### 2 2015年 子育て期調査

調査対象と方法 調査対象は小学生(1~6年)の子どもをもつ親で、小学校を通じて調査票(夫婦票)を配布し、回収も同様で821名のデータを得た。調査は2015年6月。

調査内容 2014年とほぼ同様だが、家事分担と意見の一致、アイデンティティ尺度が加わった。

### 3 2016年 中高年期調査

結婚コミットメント尺度の妥当性を検証するため、文章完成法によってデータを得た。

調査対象と方法 調査対象は中高年期の夫婦で、大学の生涯学習講座(2014年とは異なるテーマ)受講者および大学生の親で、調査票の回収は郵送法によった。213名からデータを得、調査は2016年10~11月に実施した。

調査内容 結婚コミットメント、愛情尺度、低勢力認知、性役割観、関係性 SCT

(宇都宮, 2004) 主観的幸福感、その他。

#### 4. 研究成果

##### 1 2014年(2013年を含む)調査

###### A. 結婚コミットメント尺度

中高年期夫婦を対象とした結婚コミットメント尺度を作成し、人格的コミットメント、諦め・機能的コミットメント、規範的コミットメントの3因子を抽出した。併存的妥当性として、人格的コミットメントは愛情と高い、諦め・機能的コミットメントは低勢力認知と、規範的コミットメントは性役割観と相関が得られ、妥当性および信頼性が確保された。

###### B. 結婚コミットメント尺度を用いたタイプの抽出

3つの結婚コミットメントにより、中高年期夫婦をクラスター分析によりタイプ分けした。規範的コミットメントが高く、人格的コミットメントも高い規範型、諦め・機能的コミットメントが低く、人格的コミットメントが高い愛情型、人格的コミットメントが低い疎遠型、いずれも平均的な平均型の4タイプが抽出された(図1参照)。

道徳的・道義的観点から結婚・離婚を考える規範的コミットメントが高く、かつ人格的コミットメントも高い規範型は、日本の中高年期に特有のものと考えられる。

###### C. 結婚コミットメントがジェネラティビティに及ぼす影響

中高年期における結婚コミットメントがジェネラティビティ(世代継承性)にどのように影響するか、特にジェンダーの視点から、共分散構造分析を用い多母集団で分析した。男性は人格的コミットメントからのパスが、世代性意識にも社会貢献の意志にも行くが、女性は有意ではなく、主観的幸福感に直接パスが行く。これらから、愛情があり夫婦関係が良好だと、男性はジェネラティビティを高め、女性は精神的健康を高めるというジェンダー差が見い出された(図2参照)。

##### 2 2015年調査

###### A. 子育て期の結婚コミットメントと離婚

子育て期の結婚コミットメント尺度を作成した。中高年期の結婚コミット

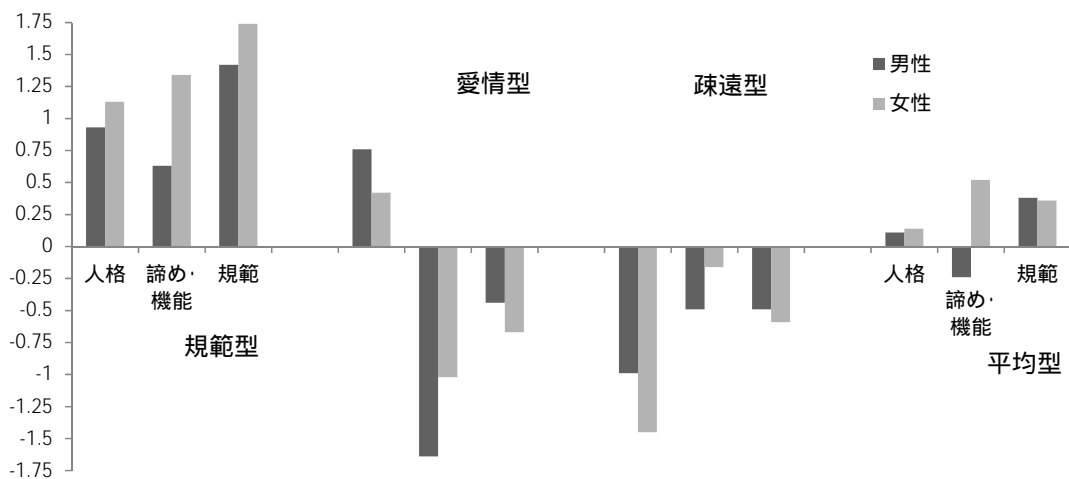


図1 結婚コミットメントによる4タイプ

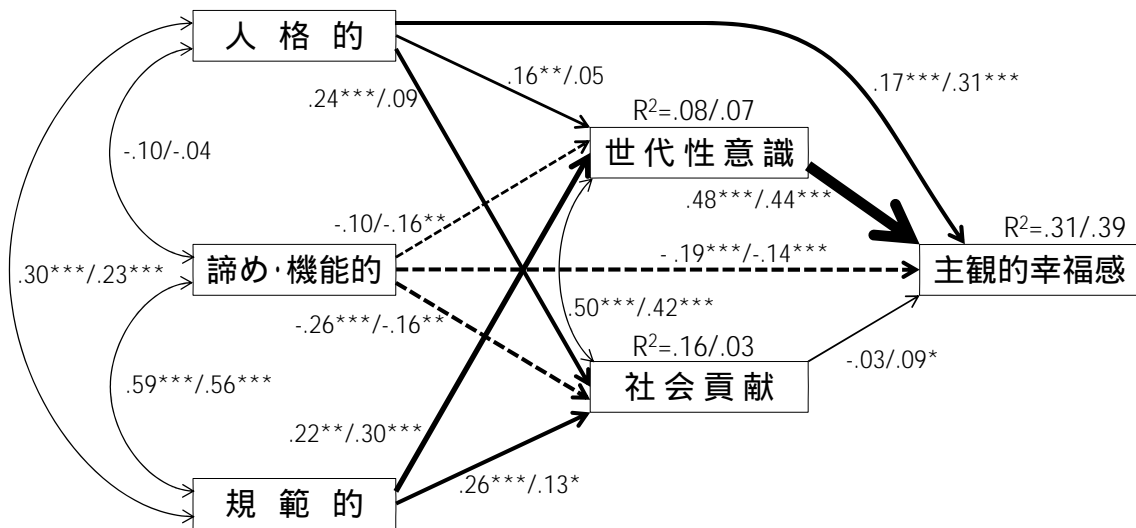


図2 結婚コミットメントがジェネラティビティと主観的幸福感に及ぼす影響の共分散構造分析の結果

注1 実線は正の、破線は負のパスを表す。なお、誤差項の表記は省いた

注2 左辺は男性/右辺は女性の値

注3 \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

メント3因子に加え、新たに子の存在コミットメントの計4因子が抽出され、妥当性が確認された。しかし、規範的コミットメントのまとまりが悪く、若い世代では結婚を規範的視点では捉えていない。また、女性では離婚の意思が男性よりはるかに高く、今日では子の存在が離婚の抑止要因には必ずしもなっていないことが明らかとなった。

B. 子育て期の結婚コミットメントと夫婦の意見の一致

子育て期における夫婦の意見の一致は、互いの人格的結びつきに裏打ちされ、愛情があることで互いに歩み寄れ

るし、歩み寄ることで愛情を感じる、そうでなければ「自分が我慢をしている」という認知が高まり、配偶者を機能的な存在として位置づけ、関係を諦めるという様子がうかがえる(表1参照)。

3 2016年調査

最終年は、初年度に作成した結婚コミットメント尺度を、文章完成法を用い配偶者をどのように位置づけているか、関係性SCTにより妥当性を検証した。関係性拡散型が女性で多いのは宇都宮(2004)と同様だが、男性で多い表面的関係性型が女性と同程度だった。ジェンダーと関

表1 夫婦の意見の一致と結婚コミットメントおよび他の夫婦関係変数との相関

|    | 人格的C    | 諦め・機能的C  | 子の存在C    | 規範的C | 愛情      | 低勢力認知    |
|----|---------|----------|----------|------|---------|----------|
| 男性 | .28 *** | -.17 **  | -.21 *** | -.05 | .39 *** | -.42 *** |
| 女性 | .47 *** | -.20 *** | -.16 **  | -.06 | .52 *** | -.46 *** |

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01

係性型を要因とする分散分析を行ったところ、関係性型で差がみられたのは人格的コミットメントのみで、結婚生活の継続はたとえ年齢がいても配偶者への人格的コミットメントの強さが関係性を左右すると言えよう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

伊藤裕子・加曾利岳美・相良順子 (2015) 中高年期夫婦における結婚コミットメントと適応 文京学院大学総合研究所紀要, **15**, 107-118.

伊藤裕子・相良順子 (2015) 結婚コミットメント尺度の作成：中高年期夫婦を対象に 心理学研究, **86**, 42-48.

伊藤裕子 (2015) 夫婦関係における親密性の様相 発達心理学研究, **26**, 279-287.

伊藤裕子・相良順子 (2017) 結婚コミットメントからみた中高年期の夫婦関係 文京学院大学人間学部研究紀要, **18**, 1-8.

伊藤裕子・相良順子 (2017) 児童期の子どもをもつ夫婦の結婚コミットメント：子の存在は離婚を思い止まらせるか 家族心理学研究, **30**, 101-112.

相良順子・伊藤裕子 (2017) 中年期におけるジェネラティビティの構造とジェンダー差 パーソナリティ研究, **26**, 92-94.

伊藤裕子・相良順子 (印刷中) 結婚コミットメントがジェネラティビティと主観的幸福感に及ぼす影響 パーソナリティ研究, **26**,

[学会発表](11件)

伊藤裕子・相良順子 (2014) 中年期夫婦の結婚コミットメント：結婚生活を継続する理由 日本発達心理学会第25回大会,

京都大学.

伊藤裕子・相良順子 (2014) 中高年期夫婦における結婚コミットメントのジェンダー差 日本心理学会第78回大会, 同志社大学.

相良順子・伊藤裕子 (2014) 中高年期における Generativity と達成動機との関連 日本心理学会第78回大会, 同志社大学.

伊藤裕子・相良順子 (2015) 結婚コミットメントからみた中高年期の夫婦関係(1) 日本発達心理学会第26回大会, 東京大学.

伊藤裕子・相良順子 (2015) 結婚コミットメントからみた中高年期の夫婦関係(2) 日本心理学会第79回大会, 名古屋大学.

伊藤裕子・相良順子 (2016) 子育て期夫婦の結婚コミットメント 日本発達心理学会第27回大会, 北海道大学.

相良順子・伊藤裕子 (2016) Generativity の年代差と男女差 日本発達心理学会第27回大会, 北海道大学.

Ito, Y. & Sagara, J. (2016) Marital commitment between couples in child-rearing period and in middle-aged and elderly period. International Congress of Psychology 31<sup>th</sup>, Yokohama, Japan.

伊藤裕子・相良順子 (2017) 子育て期の結婚コミットメントと夫婦関係：意見の一致を中心に 日本発達心理学会第28回大会, 広島大学.

相良順子・伊藤裕子 (2017) 中高年期の夫婦における低勢力認知と離婚願望：ペア・データの分析から 日本発達心理学会第28回大会, 広島大学.

伊藤裕子・相良順子 (2017) 中高年期の結婚コミットメントと配偶者との関係性：結婚コミットメント尺度の検討 日本心理学会第81回大会, 名古屋大学.

[図書] (0件)

ただし、2017年度、公開促進費を申請して  
本研究の成果をまとめる予定である。

## **6. 研究組織**

### (1) 研究代表者

伊藤裕子 (Ito Yuko)

文京学院大学・人間学部・教授

研究者番号：50296357

### (2) 研究分担者

相良順子 (Sagara Junko)

聖徳大学・児童学部・教授

研究者番号：20323868